



仮想インフラストラクチャ マネージャ

- [仮想インフラストラクチャ マネージャ \(1 ページ\)](#)
- [vCenter の可視化の追加 \(5 ページ\)](#)

仮想インフラストラクチャ マネージャ

UIパス：[仮想管理 (Virtual Management)]>[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)]



(注) Cisco Nexus Dashboard ファブリックコントローラの仮想マシンのネットワーク可視化機能が有効になっていることを確認します。

1. [設定 (Settings)]>[機能管理 (Feature Management)] を選択し、次のチェックボックスをオンにします。
 - Kubernetes ビジュアライザ
 - VMM ビジュアライザ
 - OpenStack ビジュアライザ
2. [Apply] をクリックします。

次の表では、[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] ウィンドウに表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
[サーバ (Server)]	サーバー IP アドレスを指定します。

フィールド	説明
タイプ	次のいずれかのインスタンスのタイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • vCenter • Kubernetes クラスタ • OpenStack クラスタ
管理対象 (Managed)	管理対象または管理対象外のクラスタのステータスを指定します。
ステータス	追加されたクラスタの状態を指定します。
ユーザー (User)	クラスタを作成したユーザーを指定します。
最終更新時刻	クラスタの最終更新時刻を指定します。



(注) **[更新 (Refresh)]** アイコンをクリックして、仮想インフラストラクチャ マネージャ テーブルを更新します。

次の表では、[アクション (Actions)] メニューのドロップダウンリストで、[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] に表示されるアクション項目について説明します。

アクション項目	説明
インスタンスの追加	[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから [インスタンスの追加 (Add Instance)] を選択します。詳細については、「インスタンスの追加」を参照してください。 (注) ルート上で同じ IP アドレスを設定していることを確認します。「ルート IP アドレスの設定」を参照してください。
インスタンスの編集	編集するインスタンスを選択します。[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから [インスタンスの編集 (Edit Instance)] を選択します。必要な変更を行って、 [保存 (Save)] をクリックします。 [キャンセル (Cancel)] をクリックして、変更を破棄します。
インスタンスの削除	削除する1つ以上の必要なインスタンスを選択します。[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、 [削除 (Delete)] を選択します。[確認 (Confirm)] をクリックしてインスタンスを削除します。 [キャンセル (Cancel)] をクリックしてこの削除を破棄します。

アクション項目	説明
インスタンスの再検出	再検出する1つ以上の必要なインスタンスを選択します。 [アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、[インスタンスの再検出 (Rediscover Instance(s))] を選択します。確認メッセージが表示されます。

詳細については、次を参照してください。

Cisco UCS B シリーズ ブレードサーバーのサポート

NDFC は、ファブリックインターコネクットの背後にある UCS タイプ B (シャーシ UCS) で実行されているホストをサポートします。この機能を使用するには、Cisco UCSM で vNIC の CDP を有効にする必要があります。



(注) デフォルトでは、CDP は Cisco UCSM で無効になっています。

参考のために、VMM-A と VMM-B の2つの VMM について考えてみましょう。Cisco UCS UCS B シリーズ ブレードサーバーの検出後、トポロジに青色の VMM-A と VMM-B がファブリックインターコネクット ノードであることが表示されます。トポロジの例を下図に示します。

UCSM で CDP を有効にするには、次の手順を使用して新しいネットワーク制御ポリシーを作成する必要があります。

1. UCSM で、[LAN] を選択し、ポリシーを展開します。
2. [ネットワーク制御ポリシー (Network Control Policies)] を右クリックして、新しいポリシーを作成します。
3. [名前 (Name)] フィールド、にポリシーの名前を **EnableCDP** と入力します。
4. CDP の有効なオプションを選択します。

Create Network Control Policy

Name:

Description:

CDP: Disabled Enabled

MAC Register Mode: Only Native Vlan All Host Vlan

Action on Uplink Fail: Link Down Warning

MAC Security

Forge: Allow Deny

LLDP

5. **[OK]** をクリックしてポリシーを作成します。

新しいポリシーを ESX NIC に適用するには、次の手順を実行します。

- 更新された vNIC テンプレートを使用している場合は、ESXi vNIC の各 vNIC テンプレートを選択し、[ネットワーク制御ポリシー] ドロップダウンリストから EnableCDP ポリシーを適用します。
- vNIC テンプレートを使用していない場合は、更新されたサービス プロファイル テンプレートを使用します。各サービス プロファイル テンプレートに EnableCDP ポリシーを適用します。
- 1 回限りのサービスプロファイルを使用している場合（つまり、各サーバーが独自のサービスプロファイルを使用している場合）、すべてのサービスプロファイルに移動し、すべての vNIC で EnableCDP ポリシーを有効にする必要があります。

Cisco UCSM の詳細については、『[Cisco UCSM ネットワーク管理ガイド](#)』を参照してください。

ルート IP アドレスの設定

IP アドレスを vCenter に追加する前に、Cisco Nexus ダッシュボードで同じ IP アドレスを設定する必要があります。

Cisco Nexus ダッシュボードでルートを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [インフラストラクチャ (Infrastructure)] > [クラスタ設定 (Cluster Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** [全般 (General)] タブの [ルート (Routes)] カードで、[編集 (Edit)] アイコンをクリックします。
- [ルート (Routes)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** IP アドレスを設定するには、[管理ネットワーク ルートの追加 (Add Management Network Routes)] をクリックし、必要な IP アドレスを入力して、[チェック (check)] アイコンをクリックします。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

ルート設定は、次の 2 つのシナリオによって管理されます。

1. アプリケーションサーバーである vCenter の場合、通常は管理ネットワーク経由で到達可能です。
 2. vCenter によって管理される ESXi サーバーと、K8s インスタンスや OpenStack インスタンスをホストするベアメタルサーバーは、ファブリックネットワークに直接接続されます。したがって、それらはデータネットワークを介して到達可能です。
-

vCenter の可視化の追加

[仮想的な管理 (Virtual Management)] > [仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] に表示される [アクション (Actions)] メニューのドロップダウンリストで、さまざまなアクションを実行できます。

手順

- ステップ 1** [アクション (Actions)] [インスタンスの追加 (Add Instance)] を選択します。
- [インスタンスの追加 (Add Instance)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [タイプの選択 (Select Type)] ドロップダウン リストから **[vCenter]** を選択します。

必要な IP アドレスまたはドメイン名とパスワードをそれぞれのフィールドに入力します。

ステップ 3 [Add] をクリックします。

追加された vCenter クラスタは、**[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)]** ウィンドウで表示できます。

ステップ 4 インスタンスを編集するには、必要な vCenter を選択して、**[アクション (Actions)] > [インスタンスの編集 (Edit Instance)]** を選択して、**[保存 (Save)]** をクリックします。

選択済みの vCenter クラスタのパスワードをアップデートし、ステータスを「管理対象」または「管理対象外」に変更できます。

(注) 管理対象外ステータスの vCenter クラスタの場合、ダッシュボードでトポロジと vCenter クラスタの詳細を表示できません。

ステップ 5 1 つ以上の vCenter クラスタを削除するには、必要な vCenter を選択し、**[アクション (Actions)] > [インスタンスの削除 (Delete Instance(s))]** を選択して、**[変更の確認 (Confirm changes)]** をクリックします。

(注) クラスタを削除すると、すべてのデータが削除されます。クラスタは、トポロジビューからも削除されます。

ステップ 6 1 つ以上の vCenter クラスタを再検出するには、必要な vCenter を選択して、**[アクション (Actions)] > [インスタンスの再検出 (Rediscover Instance(s))]** を選択します。

確認メッセージが表示されます。